若者に農業の楽しさを伝え、担い手を安定的に育成するための陳情書

私は現役の高校生で実家は農業を営んでいます。将来は大学進学を経て、農家を継ぐことを考えており、普段から自宅で家族と農業の未来について話をします。周囲では、農業は収穫が天候に左右されやすく収入が安定しないこと、また農繁期と農閑期で仕事量に大きな差があることなどから、子どもには継承させたくないと考える農業者の声も耳にします。私も職業として農業を選択するには多くの課題があり、今から解決策をしっかり見出しておくことが大切だと気が付きました。

農業は、生活に欠かすことのできない「食」に直接関係しており、食料自給率が下がれば輸入依存度が増して、ますます国民の食生活が脅かされていくことになります。全国的には高齢化などの影響で、手入れされずに放置状態となった農地も増えてきていると聞きます。これから日本の農業を安定的に継続していくためには、私の様な若者に農業の楽しさを伝え、就農しやすい環境を早急に整えていくことが必要です。

新規就農者が減っている理由の一つとして、いきなり始めるためにはお金も知識も技術も必要であること、また農村には娯楽や高速通信などのインフラが乏しく、魅力を感じられないことも要因だと思います。国や都道府県でも就農支援のための補助や教育制度を設けているようですが、私の周囲を見てもほとんどの生徒、学生はその内容を知りません。もっと幼少期の内から農業と食の結びつきなどを強く意識する教育と環境を構築することも重要です。

日本の農業の危機は、私の住む地域だけではなく全国的な課題だと思いますので、国や多くの自治体で改善に取り組んでいただきたく思い、私は下記の事項について陳情します。

記

1. 社会見学や総合的な学習の時間を活用して、都市に住む小学生などにも農業体験や食と農の関わりを学習する機会を増やすこと
2. 継承者のいない農家などに住み込みをして農業の基礎を学び、後継者として育成するインターンシップ制度を充実させること
3. 就農しても個人では限界があるため、新規就農者同士が支え合い、地域も協力してサポートする支援制度を拡充すること

4. 遊休農地を利用して農業を始める新規就農者に対して、生活が安定するまでの間、補助金の支給を継続すること
5. 就農体験イベント等の企画を増やすとともに、各種の補助制度なども SNS を用いて若者の眼に届くように周知広報すること
6. 都市部から農地へ通勤するなどの新しい就農スタイルの実現や農村部にも高速通信網を敷設するほか、農業用ドローンや AI 技術の習得など、若者に訴求する新しい農業の未来を提案すること

令和７年２月１日

空知郡中富良野町[redacted]

[redacted]